

ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント
日メコン交流年2019

『日本の娘』デジタル復元版上映会 (仮)
開催決定のお知らせ

2019年10月26日(土)

国立映画アーカイブ長瀬記念ホール OZU



修復前のコマより

お世話になっております。国立映画アーカイブでは、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が定めた「世界視聴覚遺産の日」（10月27日）を記念して毎年特別イベントを開催しています。

日メコン交流年2019にあたる本年は、来年のミャンマー映画生誕100年にむけて、国立映画アーカイブが所蔵する日ミャンマー初の合作映画『日本の娘』（1935年、監督：ニープ、共同監督：枝正義郎 他）をデジタル復元し、そのプレミア上映とトークイベントを開催することに決定しました。トークイベントにはミャンマーから本デジタル復元プロジェクト関係者を招聘する予定です。本国では失われていた本作がデジタル復元で甦り、本上映後に里帰り上映会も開催される予定です。本イベントの詳細は、決まり次第発表いたします。今後の周知へのご協力をお願いいたします。

【『日本の娘』とは】

「ビルマ映画の父」と呼ばれるニープの監督兼主演による、ビルマ（現ミャンマー）の初期トーキー映画。日本のP.C.L.が提携し、日本風物の紹介を目的にほぼ全編日本で撮影。1935年当時の東京羽田飛行場、目黒雅叙園、自動車競走大会など貴重なロケ映像が豊富に収められている。当時の報道によると、本作は「日本の娘」として1935年9月11日に本読み開始、10月18日に全9巻の完成フィルムをニープ氏が門司港から持ち帰った。日本未公開。フィルムは戦後、米国から返還された接收フィルムの中から発見され、当館（旧フィルムセンター）では「にっぽんむすめ」の題で1997年、2004年の企画上映で計6回上映（日本語字幕無）したが、今回初の復元となる。復元に伴う調査の結果、題名も日本の映画史に記録されている『日本の娘』に修正することとした。

【作品概要】ビルマ人飛行士の兄弟（ニープ、ティンパー）が東京-ラングーン（現ヤンゴン）間の飛行に挑み、日本人女性恵美子（高尾光子）の面影を胸に飛び立つ。

1935年（A1フィルム）85分、監督：ニープ、共同監督：枝正義郎 他（出）ニープ、高尾光子、ティンパー、サンニユン

【デジタル復元について】

国立映画アーカイブ所蔵の35mmデュープネガからデジタル化、2K解像度での画像修復、グレーディング、音声のノイズ除去、日本語字幕制作などを行い、デジタルソースマスターおよびDCPを作成。

デジタル修復：株式会社IMAGICA Lab.

作業期間：2019年7月から9月 *デジタル修復に関して取材をご希望の方は下記問い合わせ先へご連絡ください。



平成31年度美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業

【ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント

日メコン交流年2019 『日本の娘』デジタル復元版上映会(仮)】

【会期】2019年10月26日(土)

【会場】国立映画アーカイブ長瀬記念ホール OZU(2階)

主催：文化庁、国立映画アーカイブ

HP：<https://www.nfaj.go.jp/exhibition/unesco2019/>

★企画の詳細は決まり次第、別途リリース等でお知らせいたします。

【本件に関する取材・お問い合わせ】

国立映画アーカイブ『日本の娘』広報担当

〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

電話：03-3561-0823/FAX：03-3561-0830/E-mail：doj@nfaj.go.jp